

第1学年2組 音楽科学習指導案

日 時：平成25年12月18日（水）5校時
場 所：松江市立第四中学校 音楽室
指導者：教諭 鈴木 仁美

1 題材名 音色や奏法を工夫してアルトリコーダーを演奏しよう

2 題材の目標

アルトリコーダーの音色に関心をもち、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気を感じながら、奏法による雰囲気の違いを生かした表現する活動を通して、曲想を生かした音楽表現をするために必要な能力を育てる。

3 題材設定の理由

(1) 題材について

リコーダーは生徒にとって身近な管楽器である。歌唱表現の苦手な生徒や、変声期で自分の思うように表現できない生徒にとっては、歌唱より抵抗なく取り組める利点もある。しかし、その反面、楽譜の読めない生徒や器楽の苦手な生徒にとっては、丁寧な支援が必要となる。リコーダーは、容易に音が出ると思われがちであるが実際には難しい楽器であるため、曲想にふさわしい奏法を考え吹き分けるという活動は、能力に個人差があり難しいことも予想されるので、自分や他人の演奏を聴き分析する「聴く力」が必要となる。

3年間のアルトリコーダー学習の導入であるので、リコーダーの柔らかな響きで素朴な音色の魅力を感じさせることで、今後の器楽表現の基本となる題材にしたい。また、主教材の原曲となるベートーヴェンの「交響曲第9番」、モーツァルトの歌劇「魔笛」との関連にも触れ、楽譜に自分の思いや工夫を書き込んだり、ペア学習での演奏活動を通して、音や音楽を通してのコミュニケーションの力を育てたりしていきたいと考え、本題材を設定した。

(2) 生徒について

本学級は、男子21人、女子18人の計39名で構成されている。元気で明るく、男女協力して活動できる学級であるが、授業に集中しにくく、けじめに欠ける面もある。リコーダーについては小学校3年時からソプラノリコーダーを経験しており、「ふるさと」「イマジン」などの曲を演奏したことがある生徒もいる。リコーダー演奏が好きで、音色の美しさに魅力を感じている生徒がいる反面、苦手意識をもっている生徒はその理由を、指遣いが覚えられない、楽譜が読めないからと答えている。アルトリコーダーについては、2学期後半になって始めており、まだ楽器に慣れていない面があるので、細かな配慮が必要になる。

(3) 指導にあたって

本題材ではまず、アルトリコーダーの基本的な扱い方と奏法を身に付けさせたい。奏法については、ポルタート奏法・ノンレガート奏法・スタッカート奏法・レガート奏法の四つの奏法を取り上げ、奏法によって同じ曲でもその雰囲気が違うことに気づかせ、曲想と奏法とのかかわりに関心をもたせたい。さらに生徒にもなじみのある「喜びの歌」を主教材として取り上げ、四つの奏法で吹き分ける活動を通して、基本的な奏法の違いを身に付けさせ、どの奏法が曲にふさわしいかを考えさせたい。そして、歌劇「魔笛」の「これはなんとすばらしい音だ」の旋律を知覚・感受し、その曲想を感じ取って、奏法による雰囲気の違いを生かしながら、自分の思いや意図をもって表現を工夫させたいと考える。

アルトリコーダーによる活動は初めてである上に、読譜力や音楽用語等の知識・理解が十分身に付いているとはいえないため、階名を記入させたり、カードを提示したりして、生徒にとって取り組みやすくわかりやすい活動や教え方になるよう工夫し、器楽演奏や楽譜への書き込みに対する抵抗を少なくすることが必要である。また、リコーダーを苦手とし学習に消極的な生徒がいることが予想されるため、個別指導に加えてペア学習を活用し、学び合い学習ができるように支援したい。

4 学習指導要領とのかかわり

(1) 本題材で指導する事項

A 表現：器楽	
○	ア 曲想を感じ取り、表現を工夫して演奏すること。
○	イ 楽器の特徴をとらえ、基礎的な奏法を身に付けて演奏すること。
	ウ 声部の役割や全体の響きを感じ取り、表現を工夫しながら合わせて演奏すること。

(2) 取り扱う主な〔共通事項〕

ア	音色	アルトリコーダーの奏法による様々な音色
	リズム	/
	速度	/
	旋律	音のつながり方、旋律線のもつ方向性、フレーズ
	テクスチュア	/
	強弱	曲にふさわしい強弱
	形式	/
	構成	/
イ	用語や記号	/

5 教材

- ・「交響曲第9番」第4楽章より「喜びの歌」（ベートーヴェン作曲）
- ・歌劇「魔笛」より「これはなんとすばらしい音だ」（モーツァルト作曲）

6 評価規準

(1) 領域・分野と評価の観点との関連

評価の観点 領域・分野	ア) 音楽への 関心・意欲・態度	イ) 音楽表現の創意工夫	ウ) 音楽表現の技能	エ) 鑑賞の能力
A・歌唱				
A・器楽	○	○	○	
A・創作				
B・鑑賞				

(2) 題材の評価規準

ア) 音楽への関心・意欲・態度	イ) 音楽表現の創意工夫	ウ) 音楽表現の技能
<p>①アルトリコーダーの構造や奏法、特有の音色や響きに関心をもち、基礎的な奏法で演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>②「これはなんとすばらしい音だ」の曲想に関心をもち、音楽表現を工夫して演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	<p>①「喜びの歌」の旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、アルトリコーダーの特徴を生かした音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。</p> <p>②「これはなんとすばらしい音だ」の旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取る。</p> <p>③知覚・感受したことをもとに、曲想を生かした奏法を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>①アルトリコーダーの特徴を生かした音楽表現をするために必要な奏法（ポルタート、スタッカート、ノンレガート、レガート）、呼吸法、読譜の仕方を身に付けている。</p> <p>②曲想を生かした音楽表現をするために必要な奏法、呼吸法、身体の使い方、読譜の仕方を身に付けている。</p>

7 指導と評価計画（全5時間）

次	時	ねらい	○学習内容 ・学習活動	教材	評価	評価方法
一 次	1	<p>◎アルトリコーダーの奏法などに関心をもち、「喜びの歌」の旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、アルトリコーダーの特徴を生かした音楽表現を工夫することができるようにする。</p>	<p>○アルトリコーダーの構造（取扱い方を含む）や基礎的な奏法を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組立て方や片付けについて、教師のデモンストレーションによって学ぶ。 ・座って演奏するときの姿勢について確認する。 ・ド～ソの指遣いを知り、実際に音を出しながら確認する。 <p>○異なる四つの奏法による「喜びの歌」の旋律を知覚し、それらの雰囲気の違いを感じ取って音楽表現を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の範奏を聴いて、ポルタート奏法の特徴について考え、実際に音で試してみる。 ・次時は、他の奏法について学習することを確認する。 <p>②ノンレガート ③スタッカート ④レガート</p>	<p>器楽の教科書</p> <p>ワークシート1 ワークシート2</p>	<p>ア①</p> <p>イ①</p>	<p>活動の様子 の観察</p> <p>ワークシート2 発言の聴取</p>

	2	◎アルトリコーダーの特徴を生かした音楽表現をするために必要な四つの奏法や呼吸法、読譜の仕方を身に付けることができるようにする。	○四つの奏法で「喜びの歌」を吹き分け、音楽表現を工夫する。 ・それぞれの奏法のポイント（タンギング、息の使い方）を確認する。 ○「交響曲第9番」第4楽章 歓喜の歌の一部分を視聴する。 ・「喜びの歌」の旋律が様々な変奏や演奏形態で表現されていることを知る。 ○「喜びの歌」を曲想と奏法のかかわりを意識しながら演奏する。 ・なぜ、ふさわしいのか理由を考える。	器楽の教科書 ワークシート1 DVD 「交響曲第9番」 第4楽章 (管弦楽) ワークシート2	ウ①	活動の様子 の観察 発言の聴取
	3	◎「これはなんと素晴らしい音だ」の旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じることができるようになる。	○「これはなんと素晴らしい音だ」の旋律を読譜し、その奏法を学び、曲を聴いたり演奏したりして、曲想を感受する。 ・高いラの指遣いを知り、A1パート（8小節）を実際に音を出しながら確認する。 ・低いシの指遣いを知り、A2パート（8小節）を実際に音を出しながら確認する。 ・A1とA2の全体合奏を行い、2重奏による特質や雰囲気を感じ取る。	器楽の教科書 ワークシート2	イ②	活動の様子 の観察
二 次	4 (本時)	◎「これはなんと素晴らしい音だ」の旋律を知覚し、曲想を感受し、奏法による雰囲気の違いを生かしながら、思いや意図をもって表現を工夫することができるようにする。	○歌劇「魔笛」の一部分を視聴し、「これはなんと素晴らしい音だ」の旋律の特徴や曲想を感じ取る。 ・この曲が演奏される場面について簡単に知る。 ・旋律の特徴や曲想をワークシートに記入する。 ○旋律の特徴や曲想に合った奏法をペアでいろいろ試しながら表現を工夫し、思いや意図を楽譜に記入する。 ・奏法を選び、実際に試奏してみる。 ・時間があれば強弱についても考える。	DVD： 歌劇「魔笛」 ワークシート3	イ③	ワークシート3 活動の様子 の観察 ワークシート3
	5	◎曲想を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、主体的に音楽表現を工夫することができるようにする。	○ペアで奏法を工夫しながら、表現を深め演奏する。 ・工夫点を説明し、ペアで発表する。 ・演奏を聴き合い、よいところを発表する。	ワークシート3	ウ② ア②	活動の様子 の観察 発言の聴取

8 本時の学習（本時 4 / 5時）

(1) ねらい

「これはなんとすばらしい音だ」の旋律を知覚し、曲想を感受し、奏法による雰囲気の違いを生かしながら、思いや意図をもって表現を工夫することができるようにする。

(2) 展開

	・学習活動 ◇予想される生徒の反応	教師の支援	評価規準と方法
導 入	<p>○前時までの学習を振り返る。</p> <p>・「これはなんとすばらしい音だ」を演奏する。(A1・A2)</p>	<p>・姿勢、低いシ～高いラの指遣いについて確認する。</p> <p>・高いラと低いシの指遣いのポイント（サミングの方法とコツ）を丁寧に指導する。</p>	

展 開	<p>○本時のめあてと学習の流れを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「これはなんとすばらしい音だ」の旋律の特徴や曲想を生かして演奏の仕方を工夫しよう！</p> </div> <p>○歌劇「魔笛」の一部分を視聴し、「これはなんとすばらしい音だ」の旋律の特徴や曲想を感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この曲が演奏される場面について簡単に知る。 <ul style="list-style-type: none"> ◇魔法の鈴ってどんなものだろう ◇踊り出してしまふ曲なのか ・旋律の特徴や曲想を感じ取って、ワークシートに記入する。 <ul style="list-style-type: none"> ◇楽しい感じ ◇はずむような感じ ◇踊る感じ ◇おどけた感じ <p>○旋律の特徴や曲想に合った演奏の仕方をペアで試しながら表現を工夫し、工夫した点についての思いや意図を楽譜に記入する。</p> <p>①四つの奏法の中から選んだり、組み合わせたりしながら、実際に音で試してみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇はずむ感じがするからスタッカートを使ってみよう ◇似たような旋律が繰り返されるから同じ奏法でやってみよう <p>②時間があれば強弱についても考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇旋律の音がだんだん高くなるからだんだん大きくしてみよう ◇似たような旋律が繰り返されるから強弱を変えてみよう <p>○「これはなんとすばらしい音だ」を数組のペアが演奏する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的にも捉えやすいように、確認点を記したものを掲示する。 ・学習の流れを示すことで、本時の学習の見通しをもたせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・歌劇（オペラ）について説明する。 ・この曲がどんな場面で演奏されるかを伝える。 <ul style="list-style-type: none"> ・どんな雰囲気（感じ）がするかを感じ取らせる。 ・うまく言葉が見つからない生徒には、「感じシート」を手掛かりにして自分の考えや思いに近いものを探すように支援する。 ・音の高低、つながり方、旋律線のもつ方向性等に着目させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・旋律の音の高低やつながり方、方向性等に着目させる。 ・困っている生徒には、教師の範奏を聴かせ、より生徒の思いに近い奏法を選ばせたり、楽譜に演奏記号（スタッカート、スラー）や独自の表記（○と□で囲む）で書き込んだりするように助言する。 <ul style="list-style-type: none"> ・強弱を表す音楽記号について触れる。 ・活動の様子を見てまわり、リコーダーの奏法につまずいている生徒、ペアでうまく活動することができない生徒等に声をかけ、支援する。 <ul style="list-style-type: none"> ・旋律の特徴や曲想を生かして、奏法を工夫しているペアを取り上げる。 	<p>イ② 活動の様子を観察 ワークシート 3</p> <p>イ② 活動の様子を観察 ワークシート 3</p>
ま と め	<p>○本時の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の「学習のめあて」をもとに振り返りができるように発問を工夫する。 ・次回はさらに表現を工夫して演奏することを伝える。 	

(3) 本時の評価【音楽表現の創意工夫】イ③

知覚・感受したことをもとに、曲想を生かした奏法を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。

生徒の姿 評価の観点	十分満足できると判断される生徒の姿の具体例	おおむね満足できると判断される生徒の姿の具体例	努力を要すると判断される生徒の姿の具体例と支援
音楽表現の 創意工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・滑らかな感じの音の動きをレガート奏法で、弾んだ感じの音の動きをスタッカートに設定して、それぞれの奏法が生かされるような呼吸法や体の使い方を意識しながら音楽表現を工夫している。 ・旋律が上に向かっていく方向性を意識して、レガート奏法やクレッシェンドを設定し、それぞれの奏法や強弱が生かされるような呼吸法や体の使い方を意識しながら音楽表現を工夫している。 ・似たような旋律や同じリズムが繰り返される部分に、同じ奏法や対比される強弱を設定して、それぞれの奏法や強弱が生かされるような呼吸法や体の使い方を意識しながら音楽表現を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・滑らかな感じの音の動きをレガート奏法で、弾んだ感じの音の動きをスタッカートに設定して、実際に音を出しながら音楽表現を工夫している。 ・旋律が上に向かっていく方向性を意識して、レガート奏法やクレッシェンドを設定し、実際に音を出しながら音楽表現を工夫している。 ・似たような旋律や同じリズムが繰り返される部分に、同じ奏法を設定して、実際に音を出しながら音楽表現を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・旋律に合った奏法や強弱が見つからず、どうしていいのかわからないで困っている。 →四つの奏法や強弱の違いが、どのような雰囲気の違いを生み出すか教師の範奏を聴かせ、自分の思いに合うものを見つけ、スラーやスタッカートの記号や独自の表記(○と□で囲む)で記入するように支援する。 →他の生徒の表現の工夫を手掛かりにするように支援する。

9 評価の視点

「これはなんとすばらしい音だ」の旋律を知覚し、曲想を感じ取って奏法による雰囲気の違いを生かしながら、思いや意図をもって表現を工夫するための教師の支援は適切であったか。

【器楽】 音色や奏法を工夫してアルトリコーダーを演奏しよう

1年()組 名まえ()

【学習のめあて】～ 「これはすばらしい音だ」の旋律の特徴や曲想
(曲の感じ)を生かして演奏の仕方を工夫しよう!

1. 歌劇「魔笛」を視聴し、旋律の特徴や曲想(曲の感じ)をつかもう



旋律の特徴をメモしよう	曲想(曲の感じ)をメモしよう
→音の高低・つながり方・方向性はどうなってる？	→困ったときは「感じシート」を活用しよう

2. 旋律の特徴や曲想に合った奏法をいろいろ試して、表現を工夫しよう

◇どのように演奏したいか、奏法を下の楽譜に書き込もう。

・ポルタート

・ノンレガート

・スタッカート

・レガート

・レガートとスタッカート

$\text{♩} = 72 \sim 80$

A1 *mf* tu-tu tu tu-tu tu tu-

A2 *mf*

楽譜に記号や「tu-」を
書き込んでおくと
演奏に役立つよ!



$\text{♩} = 72 \sim 80$

A1 *mf*

A2 *mf*

◇なぜその奏法にしたのか理由も記入しよう

◇時間があれば強弱についても考えてみよう

3. めあてについて振り返り、授業の感想を書きましょう

4. ペア学習について感想を書きましょう